

分科会 2：プラットホーム、繫留、関係測器の大観（測器つり下げ、供給動力等）。

分科会 3：無人観測所からのデータの処理、換算、解析、使用、記録形式、必要施設と幹部

分科会 4：測器細目、受感部、伝達部、記録部、テレメーターリング（大気海洋要素向）。（数十頁の詳しい報告があるが省略）

8 国内新造調査船

宇田道隆（東京水産大学）

(1) 淡青丸（東京大学海洋研究所研究船）

昭和 38 年 3 月 1 日進水（三菱造船下関造船所）250 トン

1 万メートル深海用ウインチ（テーバードワイヤー、末端 3.3 mm）、6000m、中深海用ウインチ（9.1 mm、採泥その他）。1000m トロールウインチ、GEK、ラインホーラー（ナイロンザイル使用）、PDR（13000メートル 測深可能な精密音響測深装置）、人工地震、海上重力計、海上磁力計、地熱測定、浅海底下の地殻構造、スパーカー

新設備……三翼可変ピッチプロペラ装着バウスラスタ（微速下船位を容易に変えること容易）船の運転系統に多くオートマチックコントロールとり入れた研究室中央部の机は取外しでき、天井にとどくパネルをとりつけ、自記器その他を固定させる。飼育槽、暗室兼滅菌室、冷房、暖房装置

(2) 高風丸（函館海洋气象台観測船）

夕汐丸の代船として今年 3 月竣工（石川島播磨造船所）総トン数 335 トン、（650HP）全長 4.7 m、航海速力 11 ノット、海況、海霧

と共に海氷も調べるので耐氷型。

G E K、8000m深海音響測深機、前部に8000mテーバードワイヤー付深海用電動ウインチ、後部に3000mワイヤー付電動ウインチ、B T、自記水温計、サリノメーター、ロラン、レーダー、ジャイロコンパス等。

(3) 神 鷹 丸 (東京水産大学練習船)

昭和38年4月20日竣工(下関林兼造船株式会社)。総トン数382.07トン、長さ42m最大船速13.39ノット、航続距離8,500浬水中観測窓2個、音響測深機1万m(1)、1000m(1)、G E K油圧式15HPウインチ(3500m)等士官8、教官2、属員14、学生44、

(4) 明 洋 (海上保安庁水路部測量船)

昭和38年3月15日竣工(名古屋造船株式会社)は500トン型としての代船で、排水量485.77トン、全長44.5m、700P.S. 速力(最大)12ノット、油圧式77P.S. ウインチ(8000m) G E K、精密自動塩分計など。

9 外国新造調査船

宇 田 道 隆 (東京水産大学)

(1) 米国水産海洋調査船 Albatross. IV 新造

米国は最近議会への報告に水産海洋調査振興により、かつて日本に次ぐ生産をあげていたのが現在日本、ソ連、中共、ベルーに次ぐ才4位に落ちたのを挽回しようと、La Jolla(加州)、Ann Arbor(ミシガン)、Beaufort(ノース・カロライナ)、Seattle(ワシントン州)の水産研究所充実に加えて、海軍大型曳船2隻に新造船Albatross IV